

令和5年度 協働提案事業補助金テーマ

1	【テーマ】	【関係課】
	災害時における要配慮者支援体制の構築	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時においては、地域の人々が集まって、互いに協力し合いながら、防災活動に組織的に取り組むこと(共助)が必要であるが、高齢化や人口減少などにより、地域コミュニティの機能が低下し、地域のつながりが希薄化している ・特に、要配慮者(高齢者、障害者、女性、子ども、外国人など)に対しては、地域の人々による適切な支援等の実施が必要であるが、要配慮者への理解や具体的な支援方法等について広まっていない 	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者への避難支援等の実施について、地域で事前に支援体制を確立し、発災時に迅速な避難支援等が実施できる状態 ・地域住民どうしの顔の見える関係が構築されており、世代を超えて地域のつながりが強い状態 ・地域住民の防災意識が高まり、防災の取り組みが継続・発展する状態 ・実施団体における勉強会の内容や個別避難計画作成手順、防災訓練の実施内容などの事業成果を、市内自主防災組織等に共有できる状態(事例集、記録動画等の制作) 	
3	【テーマ】	【関係課】
	子育て世代と取り組む地域防災	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災講話や防災訓練は休日に実施されることもあるものの、小さい子供がいる世帯などは参加しづらい状況。また、共働き世帯も多く、平日の取り組みも参加が困難である ・地域の防災の取り組みに参加する機会が少ないため、市の考える防災対策などが浸透せず、子育て世代の視点が反映されにくい 	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭において、災害に対する基本的な知識を持ち、必要な備えができている状態 ・地域において、「防災キャンプ」「防災フェスタ」「防災カフェ」など、親子で楽しめる取り組みが展開されている状態 ・子育て世代の視点を踏まえた地域防災体制が確立している状態 ・子育て世代に防災知識が普及することで、親同士のコミュニティ等を生かし、発災後に正しい情報や支援の輪が自然に広がる状態 	
3	【テーマ】	【関係課】
	県立邑久高等学校の魅力向上による地方創生	企画振興課
	【解決したい課題・現状】	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・邑久高校は市内唯一の高等学校であり、将来の地域を担う人材育成の拠点としてその存在は欠かせないものであるが、少子化の影響等により募集定員は減少している。また、市内中学校の卒業生の岡山市内の高等学校等を志願する傾向が高まっており、邑久高校への進学者は1割程度となっている ・高校生をはじめとした子ども達は将来の瀬戸内市を担う人材であるが、大学等への進学、就職・結婚に伴い県内外に転出する人が多くなっている 	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・邑久高校の魅力が向上し、在校生・卒業生にとっての誇りとなり、市内のみならず近隣市町から多くの中学生に選ばれる高校となっている状態 ・邑久高生が郷土を知り、地元へ愛着(郷土愛)を持ち、将来「瀬戸内市で暮らしたい」、「瀬戸内市とつながってほしい」と思う「人づくり」ができていく状態 ・地域と高校生をつなぐ場とコーディネーターが存在する状態 	

4	【テーマ】	性的少数者の方も安心して暮らせるまちづくり	【関係課】	市民課(人権啓発室)
	【解決したい課題・現状】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・性的少数者の方の個性が尊重され、安心して暮らせるまちになっていない ・性的少数者が抱える悩みが潜在化している ・性的少数者の人権を意識する機会がない ・令和4年10月1日パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入しており、性的少数者に対する理解が広がるような啓発活動が十分でない 			
	【目指す状態(実現したい状態)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市民の個性が尊重され、安心して暮らせるまちになっている状態 ・様々な啓発媒体により、性的少数者に対する人権意識が高まり、最終的にマイノリティ・マジョリティの区別がなくなった(平等であり、それぞれ個性として当たり前認識される)状態 				
5	【テーマ】	孤独死・孤立死を防ぐための仕組みづくり	【関係課】	いきいき長寿課
	【解決したい課題・現状】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・単身高齢者が増えたため、近所づきあい等が少ない高齢者は突然死しても、しばらく気づいてもらえない ・セーフティネットの構築については、郵便配達員や配食サービス事業者、移動スーパー等との見守りに関する協定等で実施をしているが、どうしてもセーフティネットから漏れる人が出ている ・一人暮らしや高齢者世帯について、民生委員等が見守り活動をしてきているが、地域ぐるみで見守る仕組みがない ・コロナ禍で、互いの家に集まるなど高齢者同士の交流の機会が減っている 			
	【目指す状態(実現したい状態)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・孤独死、孤立死した人の遺族の交流会や、孤独死を防ぐための勉強会等の場づくりが行われ、それを企画運営できる団体が存在する状態。さらに勉強会の参加者や企画運営する団体が地域に戻った際、以下の状態につながるような地域を支える人材が育成されている状態 ・セーフティネットや地域の交流・支え合いから漏れる人がなくなり、孤独死・孤立死が起こらない状態 ・毎日高齢者が気軽に集い、語らうことができる居場所を作り、相互に確認できる体制を作ることにより、既存のセーフティネットと合わせて、異変への気づきが強化された状態(この仕組みで見守り全て賄うのではなく、セーフティネットの1つとして補完する状態) ・集会所や公共施設だけでなく、様々な手法・場所で高齢者の交流が行われている状態 				
6	【テーマ】	森林資源の整備・保全と活用手法	【関係課】	産業振興課
	【解決したい課題・現状】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には5,241haの森林があり、そのうち813haが過去に造林された人工林となっているが、木材価格の低迷により、施業されずに放置された森林が多く残っている ・近年では、森林のもつ公益的機能(水源涵養、CO2削減など)が見直され、森林環境の整備・保全が求められているが、市内には林業経営体もなく、高齢化が進む地域では整備・保全が困難になっている ・森林の整備、保全活動に取り組む市内の個人や団体、森林資源を活用した事業モデルの掘り起こし、育成ができていない ・市の管理施設である「長船美しい森」を活用し、森林資源の整備、保全に重点を置いた森林教育の機会が提供していきたい 			
	【目指す状態(実現したい状態)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・森林教育を通して、地域や森林所有者が森林資源の重要性を認識し、自主的に森林の整備、保全に取り組む状態 ・森林資源を有効活用した事業モデルを構築し、森林の整備、保全活動を自走化する仕組みができてきている状態 ・地域や事業者の活動により、市内の森林の公益的機能の維持、向上が図られている状態 				

	【テーマ】	【関係課】
7	地域観光ボランティアガイドの育成による地域活性化	文化観光課
	【解決したい課題・現状】	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延を契機として、国内における旅行スタイルは大きく変容しつつある。マイクロツーリズムに代表されるように、従来の広いエリアの観光地を浅く見て回ることから、訪問先の土地を深く知ることに移行しつつあるなど、狭いエリアについて深掘りすることに注目が集まっている ・このような現状に対して、地域の観光資源や歴史、自然に対して興味を持ちながら旅行者と交流することのできる地域観光人材(ボランティアガイド)が不足している 	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域観光ボランティアガイドの育成と組織が自走できている状態 ・旅行者等に、その土地で生活を営む市民ならではの視線で、地域の魅力を深く掘り下げ案内することで、旅行者と市民との交流が促進され、その結果として地域の活性化に結び付いている状態 ・自らが暮らす地域の観光資源や歴史、自然について、自発的に学ぶことで、その成果を訪れた旅行者等に伝えることができ、その地域ならではの「独自の体験」が提供できている状態 	